

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
青年心理学 Youth's Psychology		情報メディア学科	2年次	前期(集中)
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2	選択	福屋 いずみ	
概要				
<p>青年期の特徴を説明するとともに青年期以降の人の発達について解説する。また、自分自身のこれまでの体験をふりかえり青年期の特徴と関連づけながら理解できるよう促す。</p>				
到達目標				
<p>(1) 青年期のさまざまな特徴を理解し、説明することができる。 (2) 自分自身のこれまでの体験をふりかえり青年期について関心を高めることができる。 (3) 青年期の日常的な出来事について、心理学的に説明することができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> 1 青年期とは：生涯発達から考える 2 青年期の身体変化と心理的影響 3 青年期における認知発達 4 自己意識 5 アイデンティティ 6 青年期の親子関係 7 青年期の恋愛関係 8 社会性の発達 9 青年期の学校生活 10 青年期と地域の関わり 11 ユースカルチャー 12 キャリア教育 13 青年期の社会不適応 14 おとなになること 15 まとめ 				
テキストおよび 参 考 文 献	<p>プリントを配布する (参考文献) 高坂 康雅・池田 幸恭・三好 昭子 (2017) レクチャー青年心理学：学んでほしい・教えてほしい青年心理学の15のテーマ 風間書房</p>			
メ ッ セ ー ジ な ど	<p>青年期の特徴や課題を知ることは自分を知ることにつながると思います。興味がある人は受講してみてください。</p>			

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 青年期のさまざまな特徴を理解し、説明することができる。	青年期のさまざまな特徴を理解し、それを十分に説明することができる。	青年期のさまざまな特徴を理解し、それを概ね説明することができる。	青年期のさまざまな特徴を理解し、それについて最低限の説明ができる。	青年期のさまざまな特徴を理解できず、それを説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	50%
(2) 自分自身のこれまでの体験をふりかえり青年期について関心を高めることができる。	講義の内容と関連づけながら、自身の体験を十分にふりかえることができる。	講義の内容と関連づけながら、自身の体験を概ねふりかえることができる。	講義の内容と関連づけは不十分であるが、自身の体験をふりかえることができる。	講義の内容と関連づけながら、自身の体験を十分にふりかえることができない。	毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲)	30%
(3) 青年期の日常的な出来事について、心理学的に説明することができる。	青年期の日常的な出来事について、講義の内容を踏まえて十分に説明することができる。	青年期の日常的な出来事について、講義の内容を踏まえて概ね説明することができる。	青年期の日常的な出来事について、講義の内容を踏まえて基本的な用語を説明することができる。	青年期の日常的な出来事について、講義の内容を踏まえた説明ができない。	レポート (思考力・判断力・表現力・関心・意欲)	20%